

# 心 碩

可 行 認 発 会 風 学 院 吟 詩 日 本 法 人 社 団  
神 奈 川 碩 心 会

4年9月現在	会員数	170名	4年9月号	(242号)
逗子地区	地区名	238名	発行	者
葉山地区	地区名	48名	根 岸 岳	萃
大船地区	地区名	48名	編 集	者
(合計)	(456)	名	中 村 岳	愛

## ◎ 十月の行事予定

(第102回全国吟道大会)

とき・10月18日(日)

ところ・青森文化会館

神奈川県本部からは、10月17日〜20日にかけて吟行会を兼ねて約200名が参加します。そのうち、碩心会からも35名が参加。

## 第24回 神奈川県本部吟道大会終る

残暑きびしい8月30日(日)横須賀文化会館に於て右会が行われました。県本部も新体制となり、大会のマンネリ化等につき、建設的意見が早々と、とりあげられ、今回より役員吟詠を短縮、その時間を新しい試みとして、担当地区により構成吟等を発表することになり、今回は横須賀第一地区による「躍動！明日へ向けて」が発表され好評でした。

碩心会からも独、合吟に多数参加、コンクールに「盧山の瀑布を望む」森はるみ他と「九月十三夜」加藤芳子他二組が出吟、もうひと息というところでした。御苦労様でした。又、構成吟「頼山陽」中、詩舞「本能時」に吟上村象岳、舞佐藤湧岳、白井麗岳さん参加。

## 副部長・皆伝会幹事きまる

8月13日(木)桜山下会館にて行われた常任理事会に於て、左記の方々が選出されました。

(副部長)

- 総務副部長 荒木笙岳 宇都宮徳岳
- 許証 " 杉山雪岳 上村象岳
- 教務 " 松野宝岳
- 広報 " 山口夕岳 佐久間爽岳
- 企画 " 内山俊岳 松井正風
- 会計 " 西村昌岳 高井定風
- 逗子副地区長 田中明岳 森 晴風
- 葉山 " 三留岑岳
- 大船 " 岩崎恵岳
- (皆伝会代表幹事)
- 鈴木孝岳 山口夕岳 松野宝岳
- 綾部秋岳 沼田義岳 木村松岳

尚その他、地区温習会(逗子地区担当)、平成五年度初吟会(担当地区逗子A)、60周年大会にそなえての積立の件、本年度役員顔合せ会の計画、その他が協議されました。それらについては、決定次第逐次お知らせいたします。



## 夏休みが終つて

山口夕岳

九月一日、火曜日の人達の我が家の稽古です。今年の残暑の厳しさにはほとほと降参です。今日も朝からの蒸し暑さ、皆さん出掛けてくるの大変だなあーと思ひながら、今日の人達は午前十時となっているのでのんびりしてはいられない。まずは主婦業が先、大急ぎで洗濯掃除と張りきってすませる。

準備を整えてから、少しでも涼しくとクーラーを入れてまずは良し。八月一ぱい休んで久し振りの顔合せ、皆さんそれぞれに、山に出掛けた話、お孫さんとの楽しい交流、又体の調子の悪かった事等？、話はつきず、一向に吟に入るチャンスつかめずに、話題は次から次へと進む。

その果ての結論は、家にいるよりも出掛けて来て、詩吟で声を出している方が楽しいし、健康にも良いとなる。その通り……さあ、わかったところで声を出しましょう、私の一声に素直に「ハイ、すみません」ワッハッハーとなる。

何とも楽しいかぎりです。稽古始めということ、復習をして貰う。それぞれに声も出て、夏休家中で時には練習をしたのではと思う。なにしろ熱心なので、私の方もそれなりに大変ですが、教えられることもあり、自分の勉強のつもりで頑張っています。木曜日と土曜日の人達の元気な顔が目に見えます。この人達に囲まれて、私は年など忘れてしまいます。健康に注意して、少しでもお役に立てばと思う日々です。

## 詩歌の中から

(民謡・おてもやん)

遠い昔から詩歌が発生し存続しているが、時代により、詩歌も色々な形式のものが発生し、変化し、あるものは消え、あるものは栄えてゆく。和歌、俳句、川柳、民謡、漢詩、新体詩、流行歌等々あるが、紙面を埋めるために思いつくままに書いてみましょう。

民謡の中に「おてもやん」という民謡があります。有名な民謡ですが、意味がよく解らない。そこで調べてみたら之は熊本甚句で、熊本訛り丸出しで、甚句とは土地の文句、即ち

ち地ン句の意味とある。

おても(人名)やん、あんた此頃嫁入したではないかいな、嫁入したこつアしたバツテン、ごてどん(御亭主)がぐじやっぺ(あばた)たるけん、まあだ盃アせんだった村役鷹役きも入りどん、あんな人達の居らすけんで、あとはどうなるときやアなるたい川端町ツアン、キヤアめぐろ、かすがぼうぶら(春日南瓜)どん達ア、髯ひっ張って花盛り花盛り、チーツクチーツク雲雀の子ゲンパク茄子のイガイガドン

民謡は農民の勤勞の歌であり、慰安の歌である。

民謡には又、農民だけの歌ではなく漁師や船頭の歌う船唄があり、馬子が歌う馬追唄もある。封建制度にしいたげられて知性を失っていた彼等のありのままの感情の発露であった民謡は、今日では郷土芸術となり、傑作は全国的に愛誦されている。



杜甫 (盛唐の詩人)

(略歴)

(712~770) 姓は杜、名は甫、字は子美。号は少陵。襄陽(今の湖北省)の人。二十代から諸国を周遊し、三十代から当時の官吏登用試験(科挙)を何度か受験するが合格せず、仕官できなかった。後に玄宗皇帝に認められ低い官職を得る。しかし、安祿山の乱に巻き込まれ捕虜となる。乱後、各地を転々として流浪の旅を続けた。生涯を通して、何度か仕官はしたものの、不遇であった。

(詩風)

政治や社会に大きな関心を持ち、動乱の世の中を嘆き、その中で苦しむ民家に深い同情を寄せた。当時としては珍しい社会派詩人である。現実を直視することによるリアルな詩風であった。李白とも交際があったが、その詩風は対照的で、李白の天才型の詩人であるのに対し、努力に努力を重ねた秀才型の詩人であった。後世、詩聖と呼ばれる。晩唐の詩人、杜牧と区別して老杜とも言われ、また、李白と併称して李杜とも呼ばれる。

詩文

(詩経)

中国最古の詩集。五経の一つ。もとは単に「詩」と呼ばれていたが、宋代以後この名で呼ばれる。周代始めから春秋時代中期まで(前一一〇〇ころ~前六〇〇ころ)の詩を集める。現在伝わるのは305編。「史記」には三千余の詩の中から孔子が305編に編集したとされているが疑わしい。次の桃夭もその中の一つ。  
桃夭 「詩経より」  
桃の夭夭たる 灼灼 たり其の華  
之子千子其歸 其の室家に宜しからん  
(61年9月号に掲載)

(楚辞)

十七卷。戦国時代の楚の屈原(前340?~前277?)とその門人たちの作品を中心にした楚の詩賦を集めた詩文集。「詩経」が黄河流域の地方の文学であるのに対し、「楚辞」は揚子江流域の南方文学である。屈原は名は平、字は原、楚の王族で、衰え乱れた国を立て直そうとしたが、反対派との政争に敗れて失脚し、失意のうちに汨羅の淵に投身自殺した。作品に「漁父の辞」「離騷」などがある。

(移籍)

- 44 伊藤峰岳 一色B支部より上原支部へ
- 112 伊藤朗岳

(入会)

- 656 堀田明子 横須賀市深田台34
- (真澄) 電〇四六八一三二一五四六四
- 657 大井留治 横須賀市馬堀海岸一三一九
- (松和) 電〇四六八一四一一八五三

(退会)

- 471 伊藤敬(松和) 561 佐原和子(逗子A)
- 641 上村忠義(逗子A)

これでもかこれでもかとおつづいた残暑がやっと終り、ホットひと息。昨日は碩心会秋季審査会の日：審査を終えた方は重ね重ねホッとされたことと思います。

そして今日は森戸神社のお祭り：編集に頭をしぼり、ペンを持つて机に向っていると遠くからお囃子の音が風によって聞え、又時にはワッショイワッショイの勇ましいお御輿のかけ声も聞えてきます。祭の季節到来：私も昨夜は森山神社、今宵は森戸神社の奉納詩舞に。詩吟の行事も色々待っています。お互にがんばりましょう。